

平成27年

目黒区教育委員会

第26回定例会会議録

(平成27年7月14日開催)

第26回目黒区教育委員会定例会会議録

開催年月日 平成27年7月14日

開催場所 教育委員会室

出席委員	教育委員会委員長	木村 肇
	教育委員会委員長職務代理者	小村 恵子
	教育委員会委員	笹尾 敦夫
	教育委員会委員	中山 ひとみ
	教育委員会教育長	尾崎 富雄

出席職員	教育次長	関根 義孝
	教育政策課長（学校統合推進課長兼務）	
		山野井 司
	学校運営課長	佐藤 欣哉
	教育指導課長	佐伯 英徳
	教職員・教育活動課長	濱下 正樹
	めぐろ学校サポートセンター長	増田 武
	統括指導主事	細田 真司
	統括指導主事	和田 孝
	生涯学習課長	金元 伸太郎
	八雲中央図書館長	大迫 忠義

書記		鈴木 敏由起
		山東 隆博

(午前9時30分開会)

- 委員長 それでは、第26回目黒区教育委員会定例会を開会します。
本日の欠席職員は、学校施設計画課長です。署名委員は小村委員
です。
 ただいま、傍聴の申請がございましたのでお諮りいたします。
傍聴を許可したいと思いますますが、よろしいでしょうか。

(各委員同意)

- 委員長 それでは、傍聴を許可することといたします。
 なお、以後の傍聴の申請はその都度許可することとし、委員の
皆様にはお伝えすることはいたしません。
 それでは日程第1を議題とします。

(日程第1 平成28年度使用目黒区立中学校教科用図書採択について(協議事項))

- 説明員 (資料により説明)
- 委員長 ありがとうございます。
 ただいま説明にありましたように、本日は地理、地図、歴史、
公民の協議をしたいと思います。
 手順としまして、各委員の皆様は数社に絞っていただき、8月
4日の本委員会で上位数社を検討して、1社に絞るという手順で
いきたいと思えます。
 まず、それでは、皆さんのお手元にあります学校調査報告書と、
調査研究委員会報告書を事前に読んできていただいていると思
います。その結果を踏まえまして、一人一人の委員にお考えを伺
いたしたいと思います。
 なお、進行の都合上、会社は実社名ではなくて、こちらで決
めた呼称欄の記号で話を進めていきたいと思えます。
 それでは、地理から協議します。
- 委員 私の視点は、生徒が嫌いにならない、小学校から上がった中学
1年生が、こういった教科を嫌いにならないような工夫がされて
いるかどうかを重点的に見せていただきました。
 その視点で、私が推薦する2社を選ばせていただきました。A

とCの2社です。

Aを選んだ理由でございますが、地理が小学校時代に余り好きではなかったというような子どもでも、興味を持つような工夫がされているという印象を受けました。その中でも、小学校時代を振り返らせるような工夫、それから、試してみようという形で、自主性を育てようということ。それから、地理スキルアップですとか、学習を確認しようというものが、工夫されて書かれておりました。これがA社です。

それから、もう1社のC社ですが、これも同じ趣旨で選ばせていただきました。中でも、初めのほうのやってみようですとか、タブレットで地図を見てみようとか、そういった地理が好きになるような工夫というものが書かれておりました。それから、7ページで技能を磨くという内容のところでは、自分で考えるということの工夫、これがかなり書かれていたように思います。

こういったA社、C社に比較しますと、ほかのものは若干劣るというところで、AとCを選ばせていただきました。

以上です。

○委員

地理ですが、どの分野においても共通なのですが、広い視野に立って社会に対する関心を高め、さまざまな資料を適切に活用し、それに基づいて多面的・多角的に考察できる公民的資質の基礎を養うという社会科の目標を考慮して検討いたしました。

特に広い視野というところで、自分が住んでいる地域をもとに、他の地域や日本、また世界との関係などを考察できるような工夫があるものに、特に重きを置きました。

それから、地理はやはりレイアウトが見やすいものが大切なのではないかというところで、写真やグラフなども見せていただきました。

それから、めぐろ学校教育プランに防災教育の推進というのが掲げられておりますので、どの教科書についてももちろん取り上げられているのですが、それぞれ、どのように取り上げられているかということを読ませていただきました。

私は、どの教科書も工夫されていてよいと思われましたので、一番よいと思ったものを1つ選びました。それはC社です。

まず、写真や図表が多く、見やすいということと、図表などの資料の出典も明らかになっておりまして、特に写真などは、いつどこで撮ったものかという様子をより理解しやすく、興味・関

心を持たせる工夫がなされていると思いました。

それから、146ページから防災やハザードマップについてなどの課題学習の記述があるのですが、特に149ページに、自分たちの地域で災害発生時の被害と避難の方法を考えようというところで、災害の種類によっても日ごろからの備えを考えるですとか、避難の仕方を記入する欄もあって、とてもよいと思いました。

また、日本の諸地域の章でも防災について触れておりまして、それぞれの地域の特色によつての防災の取り組みを取り上げておりまして、自分の地域との比較ですとか、視野を広げるという意味でも、とてもよいのではないかと思います。

それから、世界のさまざまな地域の調査という章で、調査テーマを決めよう、資料を集めて調べようというほかに、技能を磨くというところで、統計資料のグラフ化ですとかレポートの作り方など、展示発表の仕方も書いてあるところが、思考力・判断力・表現力を育む工夫として、よいのではないかと思います。

以上です。

○委員

大体、皆さんが今おっしゃったことはそのとおりだと思います。

私は、まずC社を選びました。

この中で、やはり特色があるのが技能を磨くというところで、例えば地図と地理、地図の例えば等高線の描き方とか、それがどのように地形に結びつくのかという地形図の使い方など、とても、これ自体見てもおもしろいと。地図に対する興味も湧くというようなどころができていますなどと思いました。

それから、ポイントごとに学習を振り返ろうというところで、生徒にフィードバックさせるというところもよくできていると思いました。

それから、今、委員がおっしゃったように、ハザードマップの解説なども非常にわかりやすいと思いました。

あとはB社の中で、やはり現代日本の課題を考えようというところで、気仙沼市との交流について触れられていたのはすごくいいことだなどと思って、生徒はそういうところから、身近なところから地理というものに興味を持つのではないかと思います。ほかの教科書会社はそのような記述がなかったので、そこは少し残念だったんですけども、そういう意味で、B社もよいと思いました。

以上です。

○委員

それでは、私の基本的な考え方といたしましては、前回と同様でございますけれども、見やすさということももちろん大切なことではありますけれども、やはり学習指導要領の改訂のポイントをきちんと押さえているかどうかということも、大きなポイントとして選定をしています。

結論から言いますと、C社とA社です。

まず、学習指導要領の改訂のポイントとしましては、大きく3点あるのかなと思います。1点目は、基礎的・基本的な知識、概念や技能を習得する視点に立っているかどうか。それから2点目は、言語活動を充実する工夫がなされているかどうか。それから3点目は、伝統文化等の学習について充実するような工夫がなされているかどうかと。こういった3点から検討してまいりました。

まず、C社につきましては、各節ごとに学習を振り返ろうというところを設けている点につきましては、これは、学習のまとめを説明するようになっており、評価ができると思っております。

それから2点目は、豊富な資料がございます。それとともに、囲み記事などもありまして、資料を活用する技能を育んでいく構成となっているように思いました。

それから、次の点としましては、1単位時間ごとに説明しようという表現を問う課題がありますけれども、これは、先の委員にも発言がありましたけれども、思考力・判断力・表現力、こういったものを育むには非常に有用なものであるなど思っております。

それから最後に、各節のまとめとして、生徒自身が直接書き込むことができる課題設定がなされている。この点については評価をいたしております。

以上がC社です。

次に、A社でございますけれども、A社につきましてもよくできているなど思っておりますけれども、一つは、地理的な技能を学ぶスキルアップがきちっと設定されている点です。

それから2点目は、C社と同様ですけれども、豊富な資料、それから囲みの記事が多数あるということと、巻末に統計資料がある点については、資料を読み取る技能を高める工夫がなされているなど思いました。

それから3点目は、見開きのページがありますけれども、そこでは学習課題がきちんと明示されておまして、言葉や文書でまとめる設問がある点です。これはやはり、思考力・判断力・表現

力とも大きくかかわってくるなど考えました。

以上の観点から、C社とA社ということでございます。

以上です。

○委員

私もC社をまず選ばせてもらいました。そして、C社につきましては、もう皆さんの意見が出尽くしていますが、追加するならば、学習課題がやはり、ほかの教科書も全てそういう目標は明確にはしているんですが、特にC社の場合は実際的で生徒が関心を持ちやすいような学習課題の設定をしてくださっている。そして、これは地理ですから、地図と共同で学習していくことが求められるとは思いますが、特に、例えば資料活用、地図帳を使って農業地帯と気候帯を重ねてみましょうとか、そういうアドバイスがあって、地図の活用性も高めているということもあって、まずC社を選びました。

続きまして、選んだのがB社でございます。B社に関しては、やはり目標が明確に設定されている。そして、見開きごとにある振り返りが十分な量であって、非常にまとめるのにも便利であり、図や表がC社に劣らないほど見やすいということでございまして、B社を選びました。

○委員長

各委員の意見をまとめますと、A社、B社、C社の3社を採択候補とすることよろしいでしょうか。

(各委員同意)

○委員長

それではA社、B社、C社を採択候補として絞り込んでいきたいと思しますので、各委員それぞれさらに検討していただければと思います。

次は地図について協議します。

○委員

それでは、B社から先に意見を申し上げます。

このB社の地図の特徴といたしまして、世界の地図の中に日本の地図を置いているということが一つ特徴に挙げられました。例えば48ページでは、黒海の地図の中に北海道が部分的に入っている。同緯度というところで、そういった表現がされております。やはり生徒たちに興味を持たせる工夫というのに、かなり配慮されているという印象を受けました。

それから、例えば63ページを見ましたら、国の成立と移民と

いうところで、やはり地図ではありますが、歴史の記述が書かれているということで、こういった面でも多方面から生徒に興味を持たせるような工夫がされているというような印象を受けました。

もう一つ、大陸横断鉄道の歴史上の意味というようなことを書いてありました。非常にこれはおもしろい視点で書いてくれているなというような印象を受けました。

これがB社であります。

それから、A社のほうでは、調査研究委員会の報告の中にも若干触れられておりましたが、ねらいがわかりづらいと思いました。内容の単純な資料や主題図が見受けられます。要は、生徒たちが、これは何でここにあるんだろうというような疑問をひよっとしたら持つかないというようなことで、その辺に対する配慮が若干B社よりも劣っているのではないかという印象を受けました。

以上です。

○委員 どちらも、まず見やすいという工夫がなされておまして、資料の分量も適切であると思いました。

それから、両方ともハザードマップについての記述もありまして、どちらもすばらしいと思ったんですが、私は、地理の教科書はC社がよいと思っておまして、教科書を見ながら地図の図表などと連動しますと、B社がよいと今のところは思っております。

以上です。

○委員 私は、両社ともよくできていると思いました。

なかなか甲乙つけがたいですが、一つには、A社には索引のところと事項索引というのがあって、事項ごとに調べたり、資料ごとに調べたりするときには、その事項索引とか資料索引というのは、使い方によっては機能するのではないかと思いました。

それと、B社ですけれども、東京の部分についてA社より2ページほど記載が多くて、117ページから122ページまでが関東地方で、東京の周辺部というところが、117ページ、118ページにあり、その次に東京都の中心部と東京都の中心部(2)ということで、東京都について4ページを割いていて、目黒区も、全体的な形がわかるような地図と、地図の大きい見方と細かい見方というのができるような工夫もされているので、そういうところが特色があるなと思いました。

以上です。

○委員 それでは、まずB社から申し上げますけれども、大きく4点、

視点を持ちました。

1点目は、日本全図、それから世界の州別図、それから日本の地域別図がきちんと掲載されておりまして、基本図が充実しているという、基本的なところでの視点を持っています。

2点目でございますけれども、鳥瞰図が数多く掲載されておりまして、立体的に地図が認識できる。こういう点は非常に工夫されていると思いました。

3点目は、資料図として、生活、文化、歴史について、数が多く掲載されておりまして、特に文化に関する資料が充実しているという点について着目をいたしました。

4点目でございますけれども、グラフ、写真、図等が数多く掲載されており、生徒の興味・関心を高める工夫がなされていると評価をいたしました。

それから、A社についても、大きく3点着目しております。

1点目は、項立てが非常にシンプルでありまして、学習内容がわかりやすい表現になっている点について着目をいたしました。

2点目は、学習の定着を意識した単元配列になっているかどうかという点については、非常に工夫がなされているなという点でございます。

それから3点目は、地図の見方、使い方についての説明やヒントがきちんと示されている。こういった点について着目したところでございます。

以上です。

○委員

A社、B社、本当に大きな差はなかったように思います。全体の地域、地方のバランスもほとんど一緒でございますし。

ただ、地理の教科書と併用して使う場合や辞書として使ったとき、索引が充実して使いやすいのは、B社に分があると思いました。

あと、もう一つ、資料と地図の色使いが、直接比べてみるとA社は少しくすんでいるかなど。大した差ではないんですが、そのように感じました。

○委員長

各委員の意見をまとめますと、A社、B社ともに採択候補とすることでよろしいでしょうか。

(各委員同意)

○委員長 それでは各委員それぞれさらに検討していただければと思います。

次は歴史について協議します。

○委員 私は3社を選ばせていただきました。A社、X社、F社です。

まずA社ですが、生徒たちが読んでいて迷わないといえますか、歴史の場合にはいろいろな見方があり、最初にぶつかる課題ではないかと思います。ただ、生徒たちがいろいろ考える材料を調査するとか、いろいろなものを調べてみるということで、例えばインターネットを利用してそういった資料を集めてみるとか、そういったことの記述がしっかりとA社の場合にはされていたというところが印象に残りました。

それからもう一つは、特に印象に残ったのは、やはり歴史というのは歴史の事実を生徒たちがいろいろ勉強するわけでございますので、その事実についての記述の仕方が、棒読みを要求しているのか、それとも自分の知っている言葉で説明しようとしているのか、その辺が素直に生徒たちの頭の中に入るような、そういった工夫がされているかどうかというのも一つの私の視点でございました。A社の場合には、棒読みではないという印象を受けました。

それから、現代史につきましては、これもいろいろな評価はあると思いますが、難解な用語がいろいろ出てくるわけでございまして、それを簡潔に理解させる、そういった工夫、説明がされているという印象を受けました。

これがA社です。

もう1社選びましたのがX社でございます。

X社では、これは、時代を振り返ってというまとめがあるのですが、そういった振り返りにかなり力を入れている内容になっていると思いました。例えば、先ほど最初に申し上げました、生徒が、いろいろな表現がある中で、もう一度調べてみようという歴史の調べ方、この記述が6ページにあったのですけれども、ここにも非常に印象を受けました。「情報を集めて」というタイトルになっていますけれども、さまざまな集め方があるんだということと同時に、集めた情報をやはり発表する、それから振り返るといった流れを生徒にわかりやすい言葉で表現されているというところが印象を受けました。

それから、現代史のところでは、事実を表現しているというこ

とと同時に、例えば政権交代のところで、圧倒的勝利というような表現があったり、国民の期待に十分に答えることができないといったような表現はあってもいいのかもしれませんが、中学生たちにこういった表現が素直に受けられるのかなというところが、私はちょっと疑問に思いました。

そうはいいまして、先ほど集めた歴史の調べ方等につきましては評価できると思ひまして、X社を選びました。

次はF社です。私が印象に残りましたのは、これは、140ページのところにありましたが、はげ山対策というところで、要は災害復旧というような、これは東大寺の再興のことに触れられた76ページからの流れで、読ませていただきましたけれども、こういった、先ほどのハザードマップにもありましたけれども、歴史というのはやはり地理と密接に関連していると。地理の中で、はげ山の対策とかそういったことも当然勉強はしていくわけですので、それが歴史の中に書かれているということで、生徒たちの興味が広がるのではないかというような印象を受けました。そういう意味でF社を選ばせていただきました。

以上です。

○委員

歴史に関しましては、まず、歴史的事象に対する関心を高めること、そして、歴史の大きな流れをつかむ、また、伝統と文化の特色を広い視野に立って考えさせる工夫がなされているかですとか、適切に表現する能力や態度を育成するという社会科の目標に基づいて検討いたしました。

また、やはり学校現場で使いやすいものをというところで、学校調査報告書で多く評価されているもの、特に学習の定着を図る、復習したり確認に関して使いやすいですとか、また、思考力・表現力・判断力を育成する部分で工夫があると評価が多かったものを参考にいたしました。

私は、4社になりましたが、A社とB社とX社とF社です。

A社は、單元ごとにまとめのページがありまして、各自で学習内容を振り返ることができる工夫がなされているほかに、机のマークがほぼ全ページにあるのですけれども、それは、学習した内容を確認したりですとか、もしくは、さらに深める内容がありました。例えば語句の説明をさせるなど、自分の言葉でまとめる活動が多くあったのがよいと思ひました。評価報告書の中でも、よいという評価が多かったと思ひます。

それから、時代の流れをつかむというところでは、ほぼ全ページにわたって左下に時代の年表がありまして、それによって、現在勉強している事象がどの時代のことか、明確にわかる工夫がなされているのがよいと思いました。

B社においても同じように、ほぼ全ページの左側に年表がありまして、今学習している事象がどの時代かわかりやすい工夫があると同時に、やはり見開きごとに振り返るといふ、事象を確認する課題を設けておりまして、これも、調査報告書でも使いやすいという評価が多かったように思いました。

それから、振り返るといふまとめのところが、各章にも、章の最後にも学習のまとめと表現という箇所がありまして、そこでも時代の流れや特色を考えさせるですとか、やはり説明させるというようないふ、思考力・判断力・表現力を養う工夫がなされていると思ひました。この各章のまとめも整理しやすいという評価が高かったように思ひます。

それからX社ですが、見開きの下に確認しよう、説明しようという欄がありまして、学習したことの定着が図られるよう、また、表現力も養われるような工夫がなされていると思ひました。特に、確認しよう、学習を振り返ろうというところは、復習できて使いやすいという報告書の意見が多かったと思ひます。

それから、重要語句ですとか人物が写真入りで、一目でわかる点が工夫されていてよいと思ひました。

それから、小学校で学んだ出来事ですとか人物が、巻頭ですとか各章に設けられておりまして、小学校から中学校へのスムーズな移行への配慮ですとか、大きな歴史の流れをつかむ工夫がなされていると思ひました。

F社に関しましては、全ページにわたって時代の表がありまして、今学習している事象がいつの時代のものかということをおまかにつかめるといふことと、確認しよう、活用しようという欄がありまして、復習や説明をするという項目が設けられておりまして、ここも思考力・判断力・表現力などを育む工夫がなされていると思ひました。

それから、調査報告書でよかったという意見で、地域調べというページを設けて、地域の歴史調べに配慮が見られるというところも評価が高かったと思ひました。

以上です。

○委員

私は3社を選びました。A社、B社、F社です。

A社は、見開きで1単位で見やすいというところと、その導入・展開・まとめという構成がされているのが非常にわかりやすいと思いました。

それから、女性コラムというのがあって、男女平等・共同参画のところは特色がありました。もう少し取り上げてもいいのかなと思いましたけれども、そういう視点があるということはいいことだと思いました。

それからB社は、やはりこれも見開きページなんですけれども、振り返るというところで、生徒に立ちどまらせて、一度戻って考えさせるというところは、よくできていると思いました。

A社もB社もそうですけれども、時代スケールということがきちんと書いてあって、常に今自分がどこにいるのかというところを想起させるような工夫がされていていいと思いました。

F社は、これも見開きで学習できるように構成されているというところもいいと思いました。

それから、先ほど出ましたスキルアップというところも、非常によくできていると思いました。

全体的に写真などもきれいだと思いました。

以上です。

○委員

それでは、私は、3社について選定をしております。結論から言いますと、A社、X社、B社です。

基本的な視点については、これまで申し上げたとおりでございますけれども、まず、A社につきましては、基本的に人権の尊重ですとか、男女平等・共同参画の点を触れられたり、主権という用語を用いております、これらを通して生徒の社会参画というものを促している点について着目いたしております。

2点目は、現在の日本と世界の章の中で、国際関係、文化交流を取り上げている箇所が多数ありまして、ほかの教科書と比較しますと、文化のかかわる記載が一番多く、内容も充実している点について着目をいたしました。

3点目は、それぞれの時代ごとのまとめとして、章ごとに図や表にあらわしております、その時々時代の特色を捉える、そういう工夫がよくなされているなという点でございます。

それから、現代の日本と歴史の章の中では、東京に関する歴史的事象に関するものを多く取り上げておりまして、ほかの教科書

と比べますと、そういう点について着目をいたしました。

以上がA社です。

次に、X社です。時代を振り返ってというまとめの文章がありますけれども、ここでやはり基礎的・基本的な知識の習得という点で、よく工夫がされていると思いました。

それからコラムの技能を磨くという点がございますけれども、ここでは、歴史の基礎的・基本的なことを理解するための技能について身に付けられるような工夫がなされている点に着目をいたしました。

それから、それぞれの資料ですけれども、これは他社と違う点で工夫されている点については、現代語表現になっている点について着目しました。

以上がX社です。

最後に、B社でございますけれども、見開きごとに学習課題が明示されておりまして、振り返るという項目、学習課題がありますけれども、ここで基礎的・基本的な内容の確認をしたり、説明をする課題が設けられているという点について着目しております。

それから各章の初めに扉を設けておりまして、その時代を象徴する図版を用いてイメージを持たせる工夫をしている。ここで思考力だとか判断力・表現力、こういった点について工夫もなされているのかなと思いました。

それから学習事項を補足するためのコラムとして、歴史の窓というのが必要に応じて設けられている。こういう点については工夫がなされているということで、着目をしたところでございます。

私は以上です。

○委員

私も3社選ばせてもらいました。

まずA社。A社は、もう皆さんから出尽くしているんですが、机マークが充実していて、内容も適切であるということ。見開きのときに、どこの時期に当たるかというのがすぐ年表でわかるようになっているということで、常に自分が今どこを勉強しているのかということがわかりやすいと感じております。

それから、次にX社。最初にある学習課題が目的意識をはっきりと植えつけてくれますし、図表、写真も非常に見やすい。それで、時折入るイラストが疑問を投げかけてくれる。これについて、何だろうということで、もう一度学習意欲が増すということで、

X社もいいと思います。

最後に、皆さんとはちょっと意見が違うんですが、I社を選ばせてもらいました。I社は判もちょっと大きいので、持ち運びに不便かなとは思いますが、非常にユニークだと思います。例えばタイトルで、「倭寇がもたらした火縄銃」、「アヘンを持ち込むな」、「将軍吉宗の嘆き」といいながら、えっ、一体何を嘆いているんだろうとか、この内容はどうなんだろうと、興味を持ちながら読んでいくと、一気にその項を読んでしまうというような構成になっていて、教科書として必要最小限の事項を全部網羅しているかという、ちょっと偏りがあるかなという気はしますが、興味を持たせるにはいい教科書だなと感じました。

ただ、教科書を選ぶ上で、指導要領に準拠しているのも、それほど皆偏りはないわけです。ただ、生徒が勘違いをしたり、過度に一つのことを強く感じたりしないように、やはり配慮して選ぶべきかなという結果、私は、A社とX社とI社となりました。

○委員長 各委員の意見をまとめますと、A社、B社、X社、F社を採択候補とすることよろしいでしょうか。

(各委員同意)

○委員長 それではA社、B社、X社、F社を採択候補として絞り込んでいきたいと思しますので、各委員それぞれさらに検討していただければと思います。

次は公民について協議します。

○委員 当然のことながら、歴史を踏まえた上での現代でございしますので、やはり歴史の教科書と連動するというのが私にとっては大きな視点でございました。そういう意味で、私はA社、X社、F社を選ばせていただきました。

まず、A社ですが、現代というものを子どもたちが捉えやすいようにということで、最初のところに、6ページですが、スーパーマーケットから現代社会を見てみよう。これは、その中に子どもの視点での疑問みたいなことが吹き出しのような表現でされておりまして。これはやはりかなり、これは中学3年生から習い始めるのでしょうか、ある程度勉強を進めた子どもたちでも、あるいは、ちょっと1年生、2年生のころに社会が少し苦手になったというような子どもたちでも、初めて公民というものを開いた

ときに、ああ、こういったおもしろい視点があるんだなということになるのではないかなと思って、それも非常に印象を受けました。

それから、24ページに漫画でトラブルと、それから、26ページには学校でのトラブルというように、これも漫画が入っています。これもやはり、余りにも幼稚過ぎるのではないかという見方がある反面で、私などは、今までこういった形で勉強してこなかった年寄りからしますと、これは非常に取っつきやすい工夫をしているんだなと、子どもたちの関心を引くという工夫がされているという印象を受けました。

これがA社の際立った特徴でございます。

次はX社でございます。

これも同じような、A社と遜色ないなとは思ったんですけども、これも生徒が課題を考えやすく、いろいろな取り上げ方をされているということが一つ。要は、生徒の関心を引くということにかなり工夫がされているという印象を受けました。

それから、表現力や思考力とか、深く学びたくなるというようなことで、一通りの興味だけではなくて、もう少し深いところというところで、これは調査研究報告書にも出ていましたが、パン屋の経営者になってみようというようなところで、シミュレーションがあると。生徒たちがやはりそういった視点で自分たちの社会というものを考えてみるという意味では、非常におもしろい取り上げ方だなという印象を受けました。

それから、F社でございます。

F社は、これも歴史と同じような印象だったんですが、やはり学習の確認とか活用の課題というのが、これが明記されている。やはり子どもたちがちょっと苦手意識を持ったときに、これを振り返らせて、もう一度頑張ってみようというような気持ちにさせる意味での工夫というのがされているような印象を受けました。

それから、これも調査報告書にありましたが、レポートを子どもたちが書くときの書きやすい工夫というようなことにも、かなり配慮されているという印象を受けました。

以上で、歴史と同じであります、A社、X社、F社を選定いたしました。

○委員

公民に関しましては、やはり社会科の目標として、広い視野に立って社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角

的に考察し、公民的資質の基礎を養うというところで、特に社会の諸問題に着目させ、みずから考えようとする態度を育てるのですとか、事実を正確に捉え公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てるという目標を軸に検討いたしました。

それから、政治や経済などの現代社会をとられるための基礎として、対立と合意、効率と公正という概念を理解させること、それから、事象の説明ですとか、みずからの考えや集団の考えを発展させること、例えばディベートやプレゼンなど、またレポート提出など、そういうさまざまな活動への工夫も考慮いたしました。

それから、6月8日から7月4日まで、サポートセンターにあった教科書センターと八雲中央図書館で教科書展示会がありまして、区民の皆様が、社会科の教科に限りませんが、さまざまなお意見、ご感想をお寄せくださいました。やはりそういった地域住民の声も大切かと思いますので、そういった声も参考にさせていただき、やはり現場で使いやすいものが適していると思えますので、報告書でより評価の高かったものも検討させていただきました。

私は、A社、B社、X社、F社がよいと思いました。

A社に関しましては、学習したことの定着が図られるような工夫がなされているというところで、例えば机のマークの確認の項目で、その時間で学習した事象を確認したり、さらに内容を深める課題があつてよいと思いました。

それから、深めよう、確かめよう、公民にチャレンジなど、発展的な課題が多数あるということが、報告書で評価が高かったですし、教科書展示会でのご意見・ご感想の中でも、よい評価が多かったと思います。

それから、B社に関しましては、まず、章ごとの終わりに、学習のまとめと表現というものを設けて、話し合う場を持たせたり、より学習を深める工夫が見られるというところがよいと思いました。

また、振り返るという項目があり、ステップ1とステップ2で段階的に確認したり、さらに思考力を深める工夫があること、また、説明させる設問も多くあつてよいと思いました。

それから、各章に言葉で伝え合おうというトピックがありまして、ディベートやプレゼンの仕方をわかりやすく載せていました。ディベートに関しては、どの教科書も載っているんですが、一番

細かく丁寧に書いてあり、理解しやすい工夫がなされていたと思います。

それから、教科書展示会のご意見・ご感想の中で、よい評価としての数が一番多かったがB社かなと思いました。

それから、X社ですが、見開きごとに、確認しようで学習の定着を図る工夫がなされているとともに、説明しようで単元の学習に即した表現力や思考力を高める設問が用意されていることや、トライアル公民など、より深く学びたくなるような配慮がなされているところが、使いやすいという調査委員会での評価が高かったように感じました。

それからF社ですが、やはり見開きの右下に、確認しよう、説明しようという項目がありまして、学習の定着を図るとともに、説明させる設問が多いというところはよいと思いました。

それから、章の終わりに、学習を振り返るというページを設け、記入させる欄が多いのはよいと思います。

それから、トライアル公民では、新聞や裁判などについてさまざまな情報が載っており、興味・関心を持たせる工夫がなされていると思いました。

それから、全体的な評価として、写真やグラフなどが見やすいという評価が多かったように思いました。

○委員

私は3社を選びました。A社とB社とF社です。

A社は、今もお話出ていましたけれども、机のマークが出ていて、確認させるというところがよくできていると思いました。

それから、その3社なんですけれども、共通して言えることは、私は司法のところを中心に、どのように説明されているかどうか検討したんですけれども、3社とも非常によく書かれていて、特に裁判員制度など新しい制度についても、説明が丁寧にされました。それからA社の場合、ほかもそうですけれども、模擬裁判とかも取り上げられて、自分が裁判官になったらという視点で取り組めるところは、非常によくできているなと思いました。

B社も、司法のところもよく書けていると思いました。B社は、特に学習コラムなどは非常におもしろく、生徒が興味を持つのではないかと思います。

それからF社は、対立と合意とか、効率と公正というようなところに着目しました。テーマとして、これは模擬裁判的な感覚でもあるのですけれども、議論をさせて、唯一の正解というのは多

分ないものについて、どのように考えていくのがいいのか考えさせるという意味では非常におもしろい取り上げ方をしているなと思いました。

○委員

私は3社に絞り込んでおります。A社とX社とB社です。

基本的な視点については、これまで申し上げてきたとおりでございますけれども、まずそれぞれの、A社、X社、B社の特徴を申し上げますと、まずA社につきましては、見開きごとに学習課題が設けられておまして、生徒の疑問に答える、そういった工夫がされている。それから、まとめとして説明課題が設けられている点、こういった点は工夫がなされていると思いました。

それから2点目は、学習の定着を意識した単元構成になっておまして、特に章末では、この章の学習を確認しようということで、基礎的・基本的な学習の習得が図られるよう工夫がされております。

それから3点目は、言語活動でございますけれども、これを取り上げる記述として、私たちと国際社会の課題、この項目では多くのページを割いておまして、生徒の社会参画を促す、そういった仕組み、つくりになっているなと感じました。

それから4点目は、個人と社会のかかわりに関した記述として、私たちと現代社会、私たちと政治といった項目でページを割いておまして、ここもやはり生徒たちの社会参画を促す。そういった点について、かなり力を入れているのという点で着目をいたしました。

次に、X社でございますけれども、見開きごとに学習課題が明記されておまして、クローズアップマークというのを使って、平易な表現で発問しておまして、生徒が課題を考えやすい工夫がなされている点でございます。

それから、X社の2点目ですけれども、学習の定着を意識した単元構成となっている点は非常に評価ができるかなど。また、章末になりますけれども、学習を振り返ろうということで、これも前者と同様に、基礎的・基本的な知識の定着を図っている点が着目されます。

それから3点目は、自分が住むまちづくりを考えようという項目では、地域の教育課題に応じた学習ができるようになっている。そういった工夫がされている点については評価をいたしましたところでございます。

最後に、B社ですけれども、学習の定着を意識した単元構成になっている。これはほかの他社とも同様でございますけれども、ここも章末に、学習のまとめと定着という配置をしております、基礎的・基本的な知識の定着を図っていると。

それから、言語の関係でいいますと、言葉で伝えよう、伝え合おうというところでは、発展的な学習項目を取り入れている点については、言語活動を通した言語に関する能力の育成とも関連してくるのかなと思いました。

それから、まちづくりのアイデアを提言しようという項目がありますけれども、ここでは地域の教育課題に応じた学習課題、これは全社とも同じでございますけれども、このところについてもかなり工夫がなされているなということで、A社、X社、B社ということで、3社に絞り込んでおります。

以上です。

○委員

私も最後に申し上げますと、A社、B社、X社を選びました。

もう言い尽されていますが、A社からいきますと、まず、重要項目の太文字が非常にはっきりしていて、重要事項がさらにわかりやすくなっている。鉛筆マークがあって、非常にこれがいいし、公民にチャレンジ、深く学べるようなシステムもいいなと感じました。

B社に関しては、やはり学習課題そのものが非常に量も表現も適切で、振り返りが確認に適していてよかったです。あと、委員がおっしゃったように、特設ページ、言葉で伝え合おうという6テーマもあり、それから、読んで深く考えようも6テーマ、この設定も非常にいいと思いました。

それから、X社については、確認しよう、説明しようが十分な量ございます。それで、ただ、カラフルさが少し欠けるかなと気になった点もございますが、X社を選びました。

○委員長

各委員の意見をまとめますと、A社、B社、X社、F社を採択候補とすることよろしいでしょうか。

(各委員同意)

○委員長

それではA社、B社、X社、F社を採択候補として絞り込んでいきたいと思しますので、各委員それぞれさらに検討していただければと思います。8月4日にもう一度検討していただければと思

います。

ここで、議事の進行上、暫時休憩としたいと思います。

(午前10時34分、休憩入る)

(午前10時36分、休憩終わる)

- 委員長 休憩前に引き続き、会議を開きます。
次に日程第2を議題とします。

(日程第2 平成27年度目黒区教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価(平成26年度分)報告書(素案)について(報告事項))

- 説明員 (資料により説明)

- 委員長 この件についてご質問等ございますか。

- 委員 全体のまとめとしては絞り込んできて、かなりまとめた内容になってきたと思います。21ページの特別支援教育の推進ですが、例えば、1-7-1、1-7-2、1-7-3と続き、23ページに行って1-7-5では特別支援教育支援員の配置による支援の充実と言ってますが、区が行う施策の中で、区だけではできないものがあります。東京都に要望していくことや国が関わってこないと今後の方向性が出てこないものもあります。全部区で完結しようとして書いているのが無理があります。そこをきちんと、適切な人員の配置は区だけではできません。都へ要望していくことを書き込んだ方がよいと思います。

特別支援教室の事業については、マラソンで言えばスタートラインで走り出したところで、課題が山積しています。例えば、教職員の資質の向上など、東京都に力を借りないと区だけではできないと思います。これを読んだ人が手を抜いているのではないかと思われてしまいます。国や都への要望や、今後の方向性を整理すべきだと思います。その点については事務局で見直していただきたいと思います。

- 委員長 その他ご質問等ございますか。

- 委員長 特にないようですので、この報告を受けました。
次に日程第3を議題とします。

(日程第3 目黒区立大鳥中学校E (イングリッシュ) キャンプ実施について (報告事項))

- 説明員 (資料により説明)
- 委員長 この件についてご質問等ございますか。
- 委員長 特にないようですので、この報告を受けました。
次に日程第4を議題とします。

(日程第4 「自然宿泊体験教室における給食の放射性物質検査の実施について」の一部修正について (報告事項))

- 説明員 (資料により説明)
- 委員長 この件についてご質問等ございますか。
- 委員長 特にないようですので、この報告を受けました。
次に日程第5を議題とします。

(日程第5 学校給食使用前食材等の放射性物質検査の実施結果について (報告事項))

- 説明員 (資料により説明)
- 委員長 この件についてご質問等ございますか。
- 委員長 特にないようですので、この報告を受けました。
次に日程第6を議題とします。

(日程第6 教育委員会名義の使用承認状況について (報告事項))

- 説明員 (資料により説明)
- 委員長 この件についてご質問等ございますか。
- 委員長 特にないようですので、この報告を受けました。

〔 資料配布 ・生命尊重を基盤とした生活指導と組織的な対応の徹底について (通知) 〕

- 委員長 その他何かございますか。
特にないようですので、本日の定例会を閉会いたします。あり

ありがとうございました。

(午前11時14分閉会)